

18日 火曜

Ⅱ サムエル



5:1 イスラエルの全部族は、ヘブロンのだビデのもとに来てこう言った。「ご覧ください。私たちはあなたの骨肉です。」

5:2 これまで、サウルが私たちの王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。【主】はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる』と。」

5:3 イスラエルの全長老はヘブロンのもとの来た。だビデ王はヘブロンで、【主】の御前に彼らと契約を結び、彼らはだビデに油を注いでイスラエルの王とした。

5:4 だビデは三十歳で王となり、四十年間、王であった。

5:5 ヘブロンで七年六か月ユダを治め、エルサレムで三十三年イスラエルとユダの全体を治めた。

5:6 王とその部下は、エルサレムに、その地の住民エブス人のところに行った。すると彼らはだビデに言った。「おまえは、ここに攻めて来ることなどできない。目の見えない者どもや足の萎えた者どもでさえも、おまえを追い出せる。」彼らは「だビデがここに攻めて来ることはできない」と考えていたのである。

5:7 しかし、だビデはシオンの要害を攻め取った。これがだビデの町である。

5:8 その日だビデは、「だれでもエブス人を討とうとする者は、水汲みの地下道を通して、だビデの心が憎む『足の萎えた者どもや目の見えない者ども』を討て」と言った。それで、「目の見えない者や足の萎えた者は王宮に入ってはならない」と言われるようになった。

5:9 だビデはこの要害に住み、これを「だビデの町」と呼んだ。だビデはその周りに城壁を、ミロから一周するまで築いた。

5:10 だビデはますます大いなる者となり、万軍の神、【主】が彼とともにおられた。

5:11 ツロの王ヒラムは、だビデのもとに使者と、杉材、木工、石工を送った。彼らはだビデのために王宮を建てた。

5:12 だビデは、【主】が自分をイスラエルの王として堅く立て、主の民イスラエルのために、自分の王国を高めてくださったことを知った。

イスラエルの全長老がだビデを王として認め、だビデは油注がれて王となりました。主の御心として王に選ばれただビデですが、ここまで来るのには多くの苦しみと障害を乗り越えなければならなかったのです。

主の御心が分っていても、それが実現するまでには時間がかかり、それがまた主の訓練や準備であることが多いのです。この間にだビデはまた民の信頼も勝ち得たと言ってよいでしょう。

「めしいや足なえは宮にはいってはならない。」などというのは酷い差別ですが、それもだビデのことが歪められて伝わったのであって、人々はそれで彼を批判することはありませんでした。（エブス人の言うようにめしいや足なえが戦うはずなどないのに、彼らはそのような人々を持ち出してまでだビデを嘲笑したということへのあてこすりでしょう。）

このようにエルサレムがだビデの町となりました。主の選びと計画は、困難な中でも主に従う者によって、着実に進展してゆくのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

